

あすは、「ぶらり羽村」の会です

20日(日)八王子のひよどり山中に異動した藤山(虻川)さんと林さんの3人で、小宮公園を散策してきました。「ひよどり山中の目の前に、自然を活かした大きな公園があるので…」と誘われていたことが実現したのです。

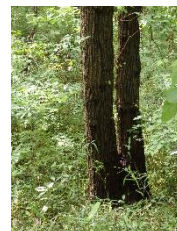
小宮公園は、加住丘陵を流れる浅川の支流、堀川にそっ



た大杉谷戸と、その周辺の里山を公園化したもので、田んぼや集落の部分は宅地化されていますが、ため池(弁天池)とその周辺に広がる森に広がっています。

とりわけ、弁天池の周辺の森は、かつての雑木林(落ち葉を堆肥にし、また20年サイクルくらいで伐って薪にするため、落葉広葉樹のクヌギ・コナラの森)が、管理されて残っています(と言っても、ここでちょっと施業は止まっていそう)

雑木林は、落ち葉を掻き取るための森ですから、勝手に生えてくる常緑広葉樹(アオキ・ヒサカキなど)やササ、下草は刈り取らねばなりません。と、そこに早春だけ日光が入り(落葉しているので)カタクリやニリンソウなど、その時期にだけ花を咲かせ、休眠してしまう植物が広がるのです(スプリングエフェメラルと呼ばれる)。



また、薪にするため伐採したあと、伐り株から出てくるひこばえを育てることで、森を再生させる萌芽更新(ポウガコウシン)も行われています(↑)。

そんな話をしながら、理科の2人は、ウバユリやギボウシの葉脈の走り方を見たり、植物の名前を植物図鑑アプリで調べたり… 早朝の楽しい散策を楽しみました。

コーヒープレイク(モーニング付き)を楽しんだ後、2人と別れ、私は、別の友人と前にちょっと謎だった昭島市内の拜島分水と昭和用水の合流点、さらにそれに合流するハケの流れ(上の川)を見に行きました。この時期になると、まだわずかに残る田んぼのために、それらの用水に水が流れるはず(水利権が生きているのです)。

住宅街の中に3枚だけ残る田んぼと、そこにひきこまれる用水路を発見(↓)。なるほど、と思いました。

さて、あした・23日の午後は「ぶらり羽村」の会です。一中周辺の史跡・雑木林などを私のちょっとした解説付きで歩きます。約2時間(途中、羽村駅を通るので、そこでおしまい、も可能、これなら1時間くらい)なぜ羽村に聖徳太子を祀る神社が?羽村から起こった一揆の記念碑…など、歩いてみませんか。参加自由。

